



修学旅行生が農家で民泊

～都会の子どもたちが農家で一日農業体験～

5月23日・24日の2日間、市では、神戸市立本山中学校の3年生78人の修学旅行生の受け入れを行いました。生徒たちは、3〜4人1組に分かれ、市内の受け入れ農家23戸に宿泊し、各家庭で様々な体験を行いました。

都会暮らしの生徒たちにとって、鹿屋市の主な産業である農畜産業や漁業に実際に触れる体験は新鮮だったようで、目を輝かせながら体験活動に取り組んでいました。

「かのやツーリズム推進協議会」では、修学旅行などの体験型観光の受け入れの充実や整備、誘致に取り組んでいます。

今年にも、都市部にある4校の修学旅行を鹿屋市で受け入れる予定です。皆さんも受け入れに参加して、鹿屋市を訪れる皆さんと感動を共有しませんか。

【問い合わせ】

かのやツーリズム推進協議会
(市商工観光課内)
☎0994-311121



かのやツーリズム
推進協議会副会長
堀之内 節子 さん
(吾平町上名)

ツーリズムの受け入れ 家庭になってみませんか

私にとってツーリズムとは、田舎の現実、良さを伝え、農業を伝える場であり、参加者にとっては、非日常であると考えています。私は、以前、県が主催するツーリズムの海外研修でヨーロッパに派遣されました。そのときに「鹿屋市は、平和教育や農業、林業、水産業、畜産業など、ツーリズムを受け入れるだけの豊富な資源があり、受け入れることは十分可能である。それに加えて、鹿屋市のPRにつながる」と感じました。ただし、そのためには、市全体の協力が必要であると感じています。市全体で盛り上がりつつなければ、地域活性化にはつながらないし、農家だけでは、限界があると感じています。私は、現在、年間で50人ほどを受け入れていますが、そうすると地域の皆さんがおすそ分けしてくれたり、快く牛舎を見学させてくださったりと協力してくださ

います。過疎化が進行する中で、地域の中に子どもたちの声や響き渡ると地域全体が元気になると思っています。地域連帯、共生協働、まさに地域活性化につながると思っています。ツーリズムの受け入れは、なにも農家でなければなりませんというわけではありません。食事、宿泊の受け入れだけでも構いません。時期によっては忙しくて、農業体験はさせることができませんが、食事の準備、宿泊までは手が回らないという農家もいます。農家だけではなく、市民の皆さんの協力があって市全体で盛り上がりつつこそ、ツーリズム受け入れは成功となるのではないのでしょうか。皆さん、ツーリズムの受け入れに積極的になってください。それこそが、地域活性化の鍵になるのではないかと私は考えています。